

放送大学 21年度第1学期学位記授与式

「学び」を楽しみ、誇りに

放送大学秋田学習センター（西田眞所長）の本年度第1学期学位記授与式が開かれ、キャリアアップや生きがいを求め、向学心を燃やして学び続けた真内の30～70代の卒業生たちに学位が授与された。学位記を受け取った卒業生たちは希望を胸に人生の新たな一歩を踏み出した。

（加藤広大）



学位を授与された卒業生ら

秋田市手形の同センターで3日に行われた授与式には、卒業生13人のうち8人が出席。西田所長が一人一人に学位記を手渡し「コロナ下という厳しい環境の中でも、学ぶ姿勢を忘れないのは素晴らしいこと。卒業後も学ぶ心を忘れずに継続してほしい」と式辞を述べた。卒業生を代表し、佐藤貴之さん（43）＝大仙市、

30～70代の13人が卒業

会費員が「学ぶことの楽しさを知ることができた。くじけそうになったこともあるが、学び続けたい日々を誇りを持ち、これからの挑戦し続けた」

学位記授与式は毎年4、10月の2回行われ、今回を含めてこれまで663人が卒業した。

放送大学は全都道府県

卒業生代表の佐藤さん

卒業生代表としてあいさつした佐藤貴之さんは、仕事をしながら学ぶことへの熱意を持ち続け、休学期間も含めて10年半かけて卒業に至った。角館高校を卒業後、秋田市の専門学校でITについて学び、同市内の企業に就職して官公庁へのパソコン設置などの業務に当たった。あるとき、ふと目にした青年海外協力隊のチラシを見て一念発起。2009年3月～11年3月の2年間、隊員としてバン格拉ダシユでコンピューター教室の補助などを行った。

この経験から、もう一度学び直してIT関連の専門知識をさらに深めたいという気持ちが高まり、帰国後すぐの11年春に放送大学の門をたたいた。

「情報コースを専攻したものの、苦手な数学につきまき、12年秋に休学。それでも仕事をしながら、向学心を持ち続けていた。

休学期限の8年が迫る中、いつでも都合の良い時間に学習できるオンライン授業が15年から選択可能になり、仕事を休まなくても単位が取りや

熱意持ち、仕事と両立



卒業生代表としてあいさつする佐藤さん（左）

「人生に遅いことはない」

「すくなくなったことを知り、20年春に復学。仕事の合間を利用して学んできた。「スマートフォンで授業を見られるので、空き時間を有効活用することができた。車の中でも音声を送ったり、自分のペースで学ぶことができた」と語る。

「しかし、大変なことも多かった。「オンラインは学友がいない孤独な学び。モチベー

にキャンパスがあり、秋田学習センターは1996年に設立。「生活と福祉」「心理と教育」「社会と産業」「人間と文化」の3形態の中から、自分に合った方式を選び、それぞれのペースで学ぶ。

「情報」「自然と環境」

シヨンを保つのが大変だった。仕事から帰ると疲れてやる気が出ないこともあった。それでも「1ミリずつでもいいから進もう」と思っただけで、振り返る。

「人生に遅いことはない。何歳になっても学び続けたい」と語った。